



はっしん！新青森



2023年3月20日(月)
第41号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

2023 あおもり桜マラソン

富士加代子さんの「シンボルかし」出陣

新青森駅構内に展示中

新青森駅構内に展示されている青森県出身のランナー・富士加代子さんの「シンボルかし」が、4月16日(日)に青森市で開催される「2023 あおもり桜マラソン」に“出陣”することになりました。制作した同市油川地区の「かしロード280実行委員会」の永井幸男実行委員長は「富士さん本人もゲストランナーとして参加する。ぜひ、参加者に楽しんでほしい」と話しています。

シンボルかしは高さ5mあります。同実行委員会が、2022年8～9月に開催した「かしロード280」に合わせて制作しました。

この催しは例年、油川地区から津軽半島にかけての国道280号沿いに、地元の人々が制作した数百体のか

かしを展示します。毎年、話題の人物をモデルに「シンボルかし」を作り、2022年は青森県板柳町地元出身でこの年、現役を引退した富士さんが選ばれました。

シンボルかしはフルマラソンの参加者向けに、同市後潟地区に出陣予定だそうです。



三内丸山遺跡

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく④

青西高生ら 遺跡の成り立ちと構造学ぶ

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」の生徒18人が3月4日(土)、特別史跡・三内丸山遺跡を訪れて学習会に臨み、遺跡の成り立ちと構造に理解を深めました。

初めに三内丸山遺跡センター保存活用課の小笠原雅行課長が生徒たちに、遺跡の概要と特色、文化財としての価値を解説し、「私たちが高校生のころは、縄文時代といえば『狩猟と漁猟、採集経済にとどまり...』と説明されていました。しかし、今は『食料の確保法が多様化し、人々の生活が安定して定住的生活を送るようになった』と記述が変わった。その変化に三内丸山遺跡が役買っています」と強調しました。

続いて生徒たちは雪に覆われた遺跡の中を探索し、復元された大型竪穴建物や1,000年にわたって作られた盛り土を見学しながら、1万年も続いた縄文時代、そして1,700年の間、人々がたくましく生き抜いた三内丸山遺跡の姿に思いを馳せていました。

熱心にメモを取っていた伊藤美羽さん(2年)は「地元の三内小学校出身ですが、知らなかったことが多くびっくりしました」。井上琥珀さん(同)は「思った以上に歴史が深い。環境の大切さが分かった」と感想を語りました。また、岡田悠人さん(同)は「とても勉強になった。縄文の人たちも私たちと同じような魚を食べていたと知り、親しみがわいた」と話していました。



三内丸山遺跡の特徴 (小笠原氏解説から)

- ①住居跡や墓域がはっきり分かれており、人々が計画的に遺跡内を区分けして生活していたなど、集落の様子がよくわかること。
- ②紀元前3,900年前から同2,200年前まで、1,700年もの長期にわたって継続していたこと。
- ③通常の遺跡では残らない動植物の遺物残り、当時の環境や食生活が具体的に分かること。
- ④北海道の黒曜石や新潟県糸魚川市のヒスイが出土し、土偶、骨刀、石棒など実用品ではない土器や石器も見つかるなど、まつり(祭祀)や交流が活発だった。





青森駅西口広場 3月22日使用開始

青森市が整備を進めていた青森駅西口駅前広場が完成、3月22日午前0時から使用が開始されます。新たな交通の拠点として生まれ変わったことを祝い、21日に関係者が出席して、落成式が行われます。

西口駅前広場は、2021年9月から工事が進められてきました。市営バスの乗り入れ本数が拡充され、市の北部方面の乗り入れ便が平日1日20便から53便に増えるほか、北部、西部方面の西口駅前広場発着便が各6便、新設されて、西口の発着便が20便から65便

に増えます。さらに、これらの新設便のうち8便は、北部方面と西部方面の直通路線となり、西口駅前広場での乗り換えが不要となります。

市内の主要観光スポットを結ぶ「ねぶたん号」は4月以降、発着地が東口から西口へ変更となり、経由地に森林博物館前が新設されます。

自動車の駐車場はバリアフリー 3台を含め30台、自動二輪車の駐車場は8台分、駐輪場は493台分が整備されています。

「絵巻えほん 11ぴきのねこマラソン大会」圧巻 青森県立美術館 コレクション展2022-4 馬場のぼる作品を紹介

青森県立美術館で4月16日（日）まで、「コレクション展 2022-4」が開かれています。最大のもものは「絵巻えほん 11ぴきのねこマラソン大会」（写真右上）を中心とした青森県三戸町出身の漫画家・馬場のぼるの作品群です。何と1,400匹余りのねこが登場する原画は圧巻です。生前は存在を知られず、没後にアトリエから発見された漫画の原画も紹介されています。

馬場のぼるの展示は「青森県立美術館サポートシブ倶楽部」との共催展として企画されました。

次世代の漫画家にも影響を及ぼした彼が、1950年代に描いた漫画の原画は、敗戦の荒廃の痕跡を残しつつ希望があふれる時代の空気を強く伝えてきます。

婦人雑誌に連載された原画を見ると、親子の語り合いの場面が浮かんできそうです。また、一般的ならコマ割りの紙面が終盤で、見開きいっぱいいの構図に移る展開は、「物語」に対する馬場のぼるの世界観を感じさせます（写真左下）。

展示された原画には、せりふが全くないものもあり



見学時間 9:00～17:00（入場は開館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）



お問合せ
〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimariyama.pref.aomori.jp>

三内丸山遺跡センター

縄文・芸術

三内丸山遺跡センター 縄文・芸術 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。
観覧料 一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット提示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）



お問合せ
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
→ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分 ※3月31日まで



Facebook ページ
Instagram アカウント

＜ネット情報＞

Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



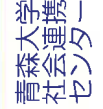
下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・権引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
権引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



FB ページ



Instagram